

①「師曰、左右可分補瀉。欲瀉左者、当将大指内之、欲瀉右者、将大指当外。反此者謂補也。」

②「師曰、補瀉者、以迎隨可主也。迎而刺之曰瀉、隨而刺之曰補。」

③「師常曰、人身血氣之往来、経絡之流貫、或補陰、可以配陽。或因此、可以攻彼。不過欲和其陰陽、欲調其血氣、使無偏勝、而得其平。是所謂補瀉也。」

このことは師である入江豊明の教え、つまり入江流の影響を多分に受けて和一の補瀉法が完成したものと思われる。

(筑波大学理療科教員養成施設)

## 25 『素問研』について

宮川 浩 也

近年、稲葉通達著の『素問研』(全八巻、一冊)が影印刊行された(オリエント出版社、一九八七年)。著者およびその書誌については刊行時に附された解説に詳しい。しかし、その成立(一八世紀後半と考えられている)や著者の稲葉通達について(生卒など)はいまのところ詳細には判明していない。

この著は解説者に「『素問識』にまさるとも劣らない」と評価された。『素問』の学理を明らかにする上で欠くべからざる注釈として、また江戸中期の『内経』学を窺う上でも重要な位置を占めているのである。しかし通覧してみると、略字・俗字、空白や全く読めない字が散見し、書き入れなどがあり、『素問研』の原貌にほど遠い感がある。

さらに詳細に検討してみると誤字・誤抄が多数見出することが出来る。よって、この影印された状態で研究すれば稲葉通達の論旨を誤ることは必至である。考証学では「書、校勘せざれば読まざるに如かず」（清・葉德輝『藏書十約』）といい、校勘しない書は読まないに越したことはないという。とくにこの書『素問研』は前述の状況から研究の第一に校勘の作業がもとめられよう。よって、テキストの校勘という角度から初步的に『素問研』を検討する。

### 1. 対校資料

『素問研』のテキストには次の兩種がある。

①今回影印された東京大学附属図書館所蔵の江戸医学館の旧蔵の抄本。抄写年代・抄写した者は不明。

②東京大学附属図書館鵜軒文庫所蔵の高島氏旧蔵の抄本。抄写年代は一八四九年。抄写者は不明。

①の抄写年が未明のため両抄本の先後は断定できないが、②が①の誤りをそのまま踏襲し、空白や難読字は空白とし、書き入れ（傍記）を整理していることなどから、おそらく①が②より早くに抄写されたことがうかがわれる。しかし若干食い違ふところもあるので断定はできないが、

解説者のいうように①を祖本とするほうがより長じているとおもわれる。

### 2. 他校資料

『素問研』は喜多村直寛の『素問講義』（一八五四年成）に「稲云」として、伊沢棠軒の『素問積義』（一八六七年成）に「研云」として多く引用されている。兩種の引用文は①ないしは②のテキストと字句の異同がみられ、その底本については断定できない。さらに『素問講義』には現『素問研』にはない文章が二条、『素問積義』には五条、それぞれ引用されている。さらに森立之の『素問攷注』にも一条『素問講義』と重複の佚文がある。以上のことから、当時において①②のテキストに限らない数種のテキストが流伝していたものと思われる。いずれにしても、これらの引用文は『素問研』の校勘の資として貴重である（副次的であるが）。

### 3. 『素問』の底本について

『素問研』は荻生徂徠の『論語徴』に倣って、原文の部分的な句を標出して以下に注釈を加えているが、その句（原文）を顧從徳本『素問』と比較してみると多くの箇所

食い違う。つまり『素問研』の『素問』の底本は顧從徳本ではないと断定できるが、底本はどれかについては不明である。というのは、文字の明確な一四條の句について、二十四卷本の顧從徳本・周曰本・寛文三年刊本、十二卷本の古抄本・元刊本・熊宗立本、『太素』、『甲乙經』、注解書の『素問異註』・『素問集注』・『類經』と総合的に校勘してみたが一四條すべて合致するものは無かったからである。おそらく、『素問研』の標出された『素問』の句は稲葉通達の手(改正)を経たものだろう。

#### 4. まとめ

正しく『素問研』を読むとすれば、少なくとも対校・他校をおこなう必要がある。さらに、すでに誤って伝抄されている箇所も数多くあるので、できる限り出典にあたって確認しなければならぬ。この煩些な作業を経てこそ『素問研』の『素問識』をこえる価値を引き出すことができよう。

(川口市)

## 26 鍼灸経穴名考証の試み

—穴名同語の出典と用法—

岩井 佑泉

鍼灸療法で用いられる経穴、いわゆるツボの名称についての研究はいくつかあるものの、医学書以外の中国古典の中で経穴の名と同じ語が特定の意味をになって用いられている例を集成する作業の報告は未見であることから一九八九年より二年間に約四〇の経穴について古典中の用例を集めたので、その中からひとつ紹介したい。

### 【崑崙】

出典(1)『書經』夏書・禹貢 編著者未詳 戦国時代末期成立か

用法○織皮、崑崙、析支、渠、搜。西戎、即叙。(織皮は崑崙、析支、渠、搜。西戎、叙に即く)

夏は先殷期(前一五〇〇年以前)の王朝で、龍山文化の遺跡